

学びのための知的技法

| | | | |
|--------------|---------------------|--------|----------|
| 責任者・コーディネーター | 人間科学科哲学分野 遠藤 寿一 准教授 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 人間科学科哲学分野 | | |
| 担当教員 | 遠藤 寿一 准教授 | | |
| 対象学年 | 1 | 区分・時間数 | 講義 21 時間 |
| 期間 | 前期 | | |

・学習方針（講義概要等）

高校までの勉強と比べ、大学での学びには、「自分で考え、行動する」こと、つまり、「主体的に学ぶ」ことが大切になります。その理由は、大学では、先人たちが積み上げてきた知識を踏まえながら、「自分で設定した問題に対し、自分なりの答えを出す」ことが求められるからです。与えられるのを待っていても、自分なりの課題設定はできないし、ましてや答えなど出すことはできません。この講義では、「主体的に学ぶ」ためのツールである、「クリティカルシンキング（批判的思考）」と「ロジカル・ライティング（論理的な文章作成）」のエッセンスを学び、6年間の大学生活に必要な学習基礎体力の定着を図ることを目標とします。

講義は書き込み式のテキストを用い、毎回、頭と手を動かして課題に取り組み、成果を提出してもらいます。講義対象者としては、他人の言うことをすぐに信じ、人の考えに左右され、自分の考えをうまくまとめられないと感じている人、レポート等の文章の評価があまりよくない人、文章作成に苦手意識のある人などを想定しています。

・一般目標（GIO）

1. 自分で考え、行動するために必要な思考の「型」を身につける。
2. 自分で考えたことを効果的に伝える、表現の「型」を身につける。

・到達目標（SBO）

1. 与えられた情報を鵜呑みにせず、一度立ち止まって複数の視点から注意深く考えることができる。
2. 自分の考えを整理し、読み手・書き手にとって分かりやすい文章を作成することができる。

・ 講義日程

【（矢）西 1-A 講義室】

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|------|----|----|--------|-----------|---|
| 4/11 | 金 | 4 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | クリティカルシンキング (1) 大学で求められる「考える力」 |
| 4/18 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | クリティカルシンキング (2) 議論の明確化 |
| 4/25 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | クリティカルシンキング (3) 隠れた前提 |
| 5/2 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | クリティカルシンキング (4) 根拠の確かさ |
| 5/16 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | クリティカルシンキング (5) クリシンの実践 |
| 5/23 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | クリティカルシンキング (6) クリシンの応用 |
| 5/30 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | ロジカルライティング (1) ロジライチャートの使い方 |
| 6/6 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | ロジカルライティング (2) 主張・意見を考える |
| 6/13 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | ロジカルライティング (3) 根拠をたくさん出す |
| 6/20 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | ロジカルライティング (4) 整理する |
| 6/27 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | ロジカルライティング (5) 文章にする |
| 7/4 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | ロジカルライティング (6) ロジライを振り返る |
| 7/11 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | 応用に挑戦 (1) レポート・論文/プレゼンテーション /ディスカッション |
| 7/18 | 金 | 1 | 哲学分野 | 遠藤 寿一 准教授 | 応用に挑戦 (2) レポート・論文/プレゼンテーション /ディスカッション |

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|------------------------|---------------|--------------|------|
| 教 | クリティカルシンキング・ロジカルライティング | 楠見孝・子安増生・道田泰司 | ベネッセコーポレーション | 2013 |

・成績評価方法

| |
|--|
| 平常点（提出課題、（書き込み式）テキストの解答内容） [80%] + 筆記試験（到達度試験） [20%] で評価 |
|--|

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|-------------------------------------|----|----------|
| 講義 | パソコン（FAITH Fortission Si35300X/DVR） | 1 | 講義資料作成、他 |
| 講義 | ノート型 PC（富士通 FMV-BIBLO LooxC/E50） | 1 | 講義資料作成、他 |
| 講義 | ノートパソコン（富士通・FMVLCE70B） | 1 | 講義資料作成、他 |

フォームの終わり